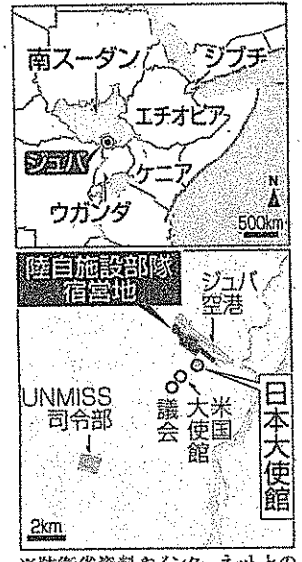


7/21 伊藤

大使陸自宿営地に避難

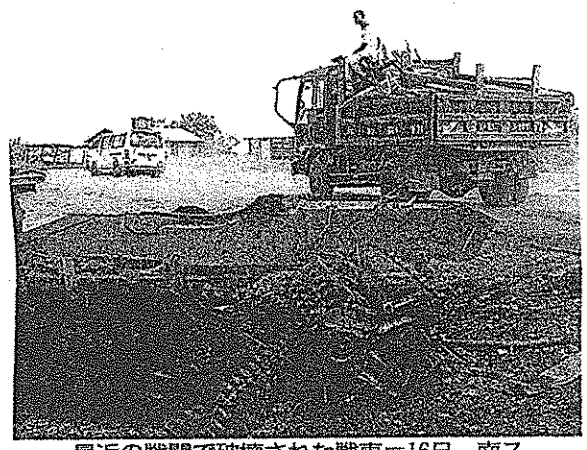
南スーダン戦闘で夜間

【アデイスアベバ＝共同】戦闘が再燃した南スーダンで、現地駐在の紀谷昌彦・日本大使と大使館員一人が安全確保のため、夜間は首都ジュバで国連平和維持活動（PKO）に参加する陸上自衛隊の宿営地に避



※防衛省資料やインターネット上の地図を基に作製

難して宿泊していることが二十日、関係者への取材で分かった。中谷元・防衛相は南スーダン情勢について「武力紛争に該当する事態ではない」と強調し、PKO参加五原則は維持されているとの立場。しかし、大使館でさえ安全確保が困難な状況が浮き彫りになり、陸自派遣継続の是非が改めて問われそうだ。大使公邸や館員



最近の戦闘で破壊された戦車＝16日、南スーダンの首都ジュバで（ロイター・共同）

の宿舎は大使館の敷地内にある。陸自部隊はPKOの南スーダン派遣団（UNMISS）に参加。現在は第七師団（北海道千歳市）を主力とする十次隊が展開してい

る。戦闘が再燃してからは、国連施設の外に出られず、十九日時点で活動を再開できている。ジュバの大使館員のうち四人は十四日、航空自衛隊のC130輸送機で近隣国

のシブチに退避した。関係者によると、紀谷大使と大使館員の計二人が南スーダンに残り、この日から夜間は陸自の宿営地に身を寄せられている。日中は大使館で執務したり、国連施設での会

南スーダンPKO アフリカの南スーダンから内戦を経て2011年に分離独立した南スーダンの安定と開発への支援を目的とする国連平和維持活動（PKO）。正式名称は「国連南スーダン派遣団（UNMISS）」。

日本政府は11年11月から司令部要員を、12年1月からインフラ整備を任務とする陸上自衛隊を派遣している。現在、日本の唯一のPKOで、司令部要員4人、施設部隊約350人が首都ジュバで活動。ことし6月から任務に当たる十次隊は、第七師団（北海道千歳市）が主力となっている。

合に出席したりしており「業務に支障はない」（外務省関係者）という。紀谷大使は共同通信の電話取材に「治安状況は厳しい。安全を確保して可能な限り勤務を継続しようとしている」と説明。南スーダンに現在も残る国際機関職員ら日本人約二十人の安全確認や南スーダンの国造り支援など大使館の業務を続けること述べた。